

松谷会長記者会見の概要

日 時：令和2年10月13日（火）15時00分～15時20分

場 所：（オンライン記者会見）

記者：

松谷会長に伺いたい。国内株式型（除くETF）はコロナショック以降、資金流出が続いているが、海外株式型や内外株式型はここ数ヶ月間資金が流入している。これまで日本の運用会社が運用の強みとしていた代表的なアセットクラスは、日本株であったと思うが、こういったグローバルな運用が支持されるトレンドの中で、運用業界としてどのように対応していくのか。また、こうした個人マネーのトレンドについて、投信協会としてどのように見えておられるのか伺いたい。

松谷会長：

あくまで私見であり、一概には言えないが、一方的に国内株式型投信（除くETF）から資金が流出し、海外株式型や内外株式型に資金が流入するということではないと思う。日本の企業に勤め収入を得ている日本の投資家の方々にとって相応しいポートフォリオを考えた場合、元々が国内株式投信の残高が多かったこともあり、トレンドとして海外株式やグローバル株式での運用が増えるのは妥当だと考えている。

その中で、日本の運用会社もグローバルでの運用力を強化していく必要があるし、その一方、独立系の運用会社の中には国内の中小型株運用で特色を出し、良好なパフォーマンスを残しているファンドもある。大手の運用会社では買収や提携等によりグローバルでの運用体制を強化する等の事例もあるが、つまり、各社各様に強みや特色を打ち出していくことが重要だと考えている。

記者：

日本株運用については、中小型株で運用を行う等、独自性のある商品で競争力の強化を図る必要があるということか。

松谷会長：

そう理解している。

以 上